

多様な建築ニーズに対応する知識提供

通信教育課程「建築学部オンライン学士プログラム」

近畿大

近畿大学は、2025年度から学士(建築学)の学位と1級建築士などの受験資格を得られる通信教育課程「建築学部オンライン学士プログラム」を開設している。初年度は想定を大きく上回る1409人が入学し、今年4月から学修開始している2年目の前期入学者も711人と好調が続いている。8月1日からの後期入学出願受付のスタートに先立ち、野田博建築学部長に通信教育課程の強みなどを聞いた。



近畿大学建築学部長
野田 博氏

1日から後期入学の出願受付

未経験者も数多く在籍している。「建築に興味を持つ仲間を増やしたいと考えており、これから学ぶ方もぜひ挑戦してほしい。建築の固定観念にとらわれない違ったビジョンや発想を、われわれが学生から学ぶこともある」と期待を寄せた。

設計の習熟度が異なる学生を対象とするため、各人に合った方法とペースで取り組むことができるよう同課程ではテキスト授業、オンライン授業、対面スクーリングなど多様な学修方法を用意している。

「理工学部建築学科時代も含め、近畿大学の建築学部は60年以上の歴史があり、その経験やノウハウを通信教育課程にもしっかり反映させている。講師たちも学生も学びへの熱量が高く、魅力的な学びを提供し、卒業生が建築業界を活性化し、魅力あるものにしていくよう願っている」と思いを語る。

核となる設計演習のスクーリングは従来より方に固執しない柔軟な思考力が求められ、さまざまなことを受け止められる知識が必要だ」と指摘する。

それは教育する側にも当てはまる。「われわれも社会の動きを見ながら、通信教育課程を含む建築学部全体のカリキュラムや授業内容を柔軟に見直し、学生に必要な知識を提供していかなければならない」と力を込める。

企業や社会人のリカレント・リスキリング需要が高まる中で、働きながら学べる通信教育はその有力な選択肢となる。「大学で体系的に学び直すことで、仕事を通じて得た知識を常に整理・見直すことができ、新しい視点やアイデアが生まれ、それを仕事にフィードバックできる」という。

一方で、通信教育課程には建築



西岡さん

生活に合わせた学習が可能

後期入学の出願期間は8月1日から9月30日まで。高卒者を対象とする1年次入学は4年間、大卒者を対象とする3年次編入入学は2年間で学修できるカリキュラム編成となっている。

「会社でデザインの仕事を手伝うことがあり、きちんと勉強してみようと思った。近畿大学の通信教育課程は延長になっても費用面で通いやすく安心して卒業を目指せると思った」と入学の理由を説明する。

平日の出勤前後、週末のある程度まとまった時間を使い、1週間30時間程度を学習に充てており、「想像以上に忙しく大変だが、それ以上に楽しんで学べている。まずは資格試験に合格し、それを生かした仕事ができればと思う」と語る。

